

台湾ベーシックエンカウンターグループ(Basic Encounter Group)合宿へのお誘い

時間:2012年2月6日~2月9日(3泊4日)

場所:実践大学高雄校区(高雄市内門区大學路200號)

費用:合宿の運営に求められる諸費用(宿泊や食事、その他の実費)

主催:台湾日語教育學會(E-Mail:taiwanjapanese.url.tw@gmail.com)

共催:実践大学(高雄校区)

担当:工藤節子先生(東海大学日文系助理教授、台湾日語教育學會監事)

本合宿は、ベーシックエンカウンターグループを日本で実践されているお二人の先生、清水幹夫先生(法政大学)、堀内みね子先生(神田外語大学)をファシリテーター(Facilitator)としてお招きして行うものです。清水先生と、堀内先生は毎年、ゼミ生、院生を対象とした合宿でベーシックエンカウンターグループを実践されています。本合宿を行う目的は以下の二つです。エンカウンターについては以下をご参照ください。

- ① 将来的に日本と台湾の大学生が合同でエンカウンター合宿ができるかどうかを検討する。
- ② エンカウンター体験を教師自身が試してみても、どう活かせるかを検討する。

●●●ベーシックエンカウンターグループとは何か

ベーシックエンカウンターグループ(BEG)は、1960年代の米国のヒューマンポテンシャル(Human potential movement)の渦中に、クライエントセンタードセラピー(Client-centered therapy)を始めたC.R. Rogersが発展させた集中的グループ体験(Intensive group experience)です。クライエントセンタードセラピーの背景となっている自己理論(Self theory)をグループに適用しているため、受容的、許容的雰囲気の中で、内面の交流を大事にしなが、参加者個々人のパーソナリティーの成長と発展を目指します。日本には、1970年に紹介され、心理学的には自己探求、カウンセラーやセラピスト養成、看護教育や教員研修に活用されています。ゆったりとした安心できるグループの中で行われる内面的交流は、単なる語学の知的な学習に比べて、様々な個人的な感情体験を表現しながらころから参加者同士が密度こく交流をするので、実感を伴う日本語の学習にとっても役に立つはず。

通常は、3泊4日の合宿を伴う集中的な体験ですので、最終日には、それぞれの生き方やあり方を尊重すると共に、自己肯定感、自尊感情、心理的安定感、自己受容感が高まることが知られています。

上記と同様のグループに国分康孝が開発した構成的グループエンカウンターがあります。グループ活動の目標設定が明確で、リーダーが提供する活動を行い、活動後に体験過程のふりかえりを他者と共有することが多いのでBEGと区別してSGE(Structured Group Encounter)と呼ばれています。

今回のBEG合宿は、活動の大きな枠組みはあるものの、構成度の極めて低いエンカウンターグループと表現できるものです。どのようにグループが展開していくのかは、合宿の場に集まった参加者一人ひとりが模索しながらその過程を進めていくこととなります。